

ニライみらい

2026年(令和8年) 9月号 462号

会社を成長させ
経営者としても成長する！



今月号の目次

- 1・2 面 21 世紀に輝く【株沖明】
- 3 面 中小企業魅力発見フェア・茶論
- 4 面 新会員オリエンテーション
- 5 面 浦添でだこ支部例会
- 6 面 北部支部例会・事例報告
- 7 面 八重山支部例会・子どもまつり
- 8 面 サンライズ支部例会・学習会
- 9 面 南部支部学習会、ゆいピッチ
- 10 面 共育塾第1講、フォローアップ研修会
- 11 面 経営指針作成講座
- 12 面 役員研修会、那覇支部新会員歓迎会
- 13 面 会員訪問委員会活動
- 14 面 人を生かす学習会
- 15 面 だっからよ〜【沖縄フルーツランド株】
- 16 面 わが社のポリシー【株宮昌工業】

同友会ってどういう会？



魅力動画



入会申込フォーム



行事案内



Facebook

会社を成長させ、経営者としても成長する！

21世紀に
輝く No.254

(株)沖明は、一九五八年創業、三代続く沖縄唯一の動物薬品専門の卸しを行なう会社です。まだ会社が、那覇市三原にあったころ、同友会には三代目の現社長が参加し、支部活動や経営指針作成講座など受講。二〇一一年に現在の与那原町東浜に移転しました。

その四代目となるべく我喜屋成氏は二〇二〇年に入社しました。大学時代、理学部に在籍し、研究職を目指し大学院まで進みますが、大阪にある一〇〇名規模の分析機械販売会社と就職活動で出会います。最新の情報を持って、科学技術の研究に携わる仕事は、やりがいのある楽しい仕事でした。管理職も任せられ、十年目を迎えたころ、父親から「帰ってこないか」と連絡があります。

つもりもなかった我喜屋氏ですが、知らなかった父親の入院で、両親の老いを感じ沖縄に帰る決意をします。そして、それは必然的に四代目を意味していました。

(株)沖明は創業当初、畜産向け医薬品を中心に事業を展開していましたが、近年ではペット（コンパニオンアニマル）医療の需要が拡大、成長しています。地域に密着しながら、「安全・安心な畜産物の生産」に欠かせない技術や情報、動物用医薬品を幅広く提供し、食の安全と安心の実現に取り組んでいます。そして、「安全・安心な製品を届けることで飼い主や獣医師、農場経営者に信頼される企業であり続けたい」という理念のもと、時代のニーズに合わせたサービスやサポート体制の強化に取り組んでいます。特に、獣医師、動物病院、生産者、そしてペットオーナーのそれぞれにとって「最適



我喜屋 成氏

なパートナー」であるべく、不要な薬剤使用を避け、健康を第一に考えた提案を心がけています。

入社した我喜屋氏は、半年ほどの研修期間を設け、社内でのコミュニケーションづくりに注力しました。年齢を超えての付き合い方や接し方は、以前の会社での経験が生かされました。当時、後継者はいなく、マネージャー不在の個の集合体だったと振り返ります。従って、すぐに教育体制の確立に取り組みました。今、三年前に入社した新入社員が営業職として成長し、成果が出せるようになり、「一人ひとりが目的を持って自発的に行動し、目標に向かって突き進む組織として強い会社」を目指しています。

同友会には、サンライズ支部の立ち上げから役員として、本格的に活動に参加。二年が経過して、ビジネス目的でない、同友会の使い方が見えてきました。「同友会は多くの社長から経営体験を聞くことで『よい会社』を目指す組織」と語る我喜屋氏。経営指針作成講座も受講し、父親が作った経営理念を見つめ直し、十年ビジョンの必要性から中期計画づくりに具体的に組みます。二年後には七十周年も控えており、百年企業を目指せる組織を創り上げていきます。

スモールサンのメンバーからキャンプの誘いを受け、日程を合わせて集ま

ったり、ソロキャンプにも興味があります。「学生時代に没頭したバスケットボールも再開したいし、映画鑑賞も続けたい」と余暇活動も充実している我喜屋氏。「会社を成長させ、経営者としても成長する」楽しみな存在がまた一人増えました。

(カラオケ同友会 島尻裕巳)



会社入口

《会社概要》

(株) 沖明
取締役営業部長 我喜屋 成氏
〈サンライズ支部〉

所在地 / 与那原町字東浜91-2

T E L / 098-944-2233

事業内容 / 動物用医薬品一般販売
動物用機器・畜産用機器
各種計量器プラント



学生たちのプレゼン



プレゼン表彰された県立芸大チーム

内閣府沖縄総合事務局、独立行政法人中小企業基盤整備機構沖縄事務所、沖縄県、沖縄同友会の四者共催での取り組みが、繋がりをさらに強めることができたことも成果の一つとなりました。

(オフィス星崎 星崎浩二)

中小企業魅力発見フェア2026 若い感性で探る 中小企業の魅力と可能性

七月一日、沖縄産業支援センターにて、中小企業魅力発見フェア2026が「若い感性で探る中小企業の魅力と可能性」のテーマで開催されました。初の取り組みとして、公益財団法人沖縄県産業振興公社主催の「おきなわ中小企業応援フェ

ア」と併催して、企業・行政・学校関係者、約二百名が参加しました。

初めに、中小企業の日・魅力発信月間の意義・目的を、星崎浩二沖縄同友会政策副委員長が、「中小企業の日は、二〇一五年に沖縄同友会が開催した中小企業憲章シンポジウムにて初めて提起され、中同協を中心に経済団体が国へ提言したことがきっかけで、二〇一九年に制定されました。地域に根ざす中小企業として誇りを持ち、これからも積極的に沖縄県の発展に寄与し続ける存在でありたい」と報告しました。

学生による中小企業魅力発見報告会では、六大学（沖縄大学、名桜大学、沖縄国際大学、琉球大学、沖縄県立芸術大学、尚学院公務員法律大学校）の九チームが、企業九社（内、同友会企業五社）の企業訪問を行い、企業研究して導き出した各社の魅力、商品開発や新店舗企画など、様々なアイデアをプレゼンテーションしました。

企業側からは、「企業側ではなかなか気付けない魅力を見つけてもらえたので、参加して良かったです」と感想がありました。

茶論

むかひ火や父のおもかげ母の顔／加舎白雄▼八月下旬、沖縄は旧盆を迎える。仏壇を囲み、懐かしい人の話をする。先祖から受け継いだものは、名前や家だけではない。口癖、働く姿、人を大切に

心にする心。目には見えないもののほど、今を生きる私たちの中に深く息づいている▼会社も同じだろう。事業承継で引き継ぐものは、株式や資産、役職だけではない。創業の志、お客様との信頼、社員が培ってきた技術、地域とのつながりである。それらは決算書には載らないが、会社を支える大切な財産だ▼一方、先代のやり方をそのまま続けることが承継ではない。理念は守り、方法は時代に合わせて変える。譲る側には任せる覚悟が、受け継ぐ側には自分の経営を築く覚悟が求められる。後継者は、指名された日ではなく、仕事を任せられ、失敗し、考え抜いた日々の中で育っていく▼経営者が元氣なうちに、後継者と会社の未来を語り、経営指針を共有し、役割と権限を少しずつ手渡ししていく。事業承継は引退の準備ではない。会社の未来をつくる経営そのものだ▼同友会の経営指針づくりや社員共育、例会での率直な学び合いは、経営を一人の経験から組織の知恵へ変える営みである。自主・民主・連帯の理念もまた、世代を超えて実践されてこそ生き続ける▼旧盆は過去を懐かしむだけの日ではない。受け継いだ命と志を、未来へどう生かすかを問い直す時でもある。私たちは次の世代に、何を残し、何を任せるのか。手順を教えるだけでなく、その手順に込められた心まで、丁寧に手渡していきたい▼盆用意祖母の手順を守りけり／横山さくら（作古）



6月新会員オリエンテーション 浦添・宮古同日に二カ所で開催！

【浦添でだこ支部】

七月十四日、浦添市社会福祉センターにて、浦添でだこ支部設営で、新会員オリエンテーションが開催され、新会員六名を含む十七名が参加しました。

「同友会の歴史と理念」は與崎文美副代表理事が担当し、「会員の経営体験報告」は(株)琉球ワールドの具志堅保男社長と(株)LIM Projectsの新崎直和社長が報告しました。具志堅氏は経営指針作成講座を受講し、会社が変わってきたことを、新崎氏は支部が独自に取り組む「ビジネス改善ラボ」がきっかけになったことを話しました。



新会員のみなさま

(後列左から)

- ① 土屋 瑞樹氏 (一社)セレンティパークジャパン沖縄 ディレクター
- ② 廣瀬 元行氏 サザンウエスト(株) 取締役
- ③ 糸州 徹氏 ライト建設(株) 社長

(前段左から)

- ④ 前平雄一郎氏 (株)TENOHIRA 社長
- ⑤ 松田 生江氏 MAON VEGAN FACTORY 代表
與崎文美副代表理事
- ⑥ ハツ星 亮氏 8 STARS 経営労務パートナー 代表

【宮古支部】

宮古支部は七月十四日、宮古島市未来創造センターで新会員オリエンテーションを開催し、新会員七名、ゲスト三名を含む十九名が参加しました。当日は「YOUは何しに同友会へ!?」をテーマに『学び』をスタートさせよう!」をテーマに、同友会の理念や目的を学び、新会員同士の交流を深めました。

友利博明支部長の開会挨拶に続き、一瀬宗也副代表理事が同友会の理念や歴史、三つの目的について講話しました。続く体験報告では、(有)沖島電機の実業田一郎社長が、同友会での学びを通して、自身が経営者としてどのように変わったのかを語りました。

真栄田氏は、以前は仕事を最優先し、忙しいことが経営者の価値だと考えていたと振り返りました。しかし、同友会での学びを重ねる中で、社員や家族、協力会社を大切に、共に成長することが経営者の役割であると気づいたといいます。また、社長がすべてを抱え込むのではなく、会社の進む方向を示し、経営課題に向き合うことが重要だと話しました。

さらに、「経営理念や経営指針は、作るだけでなく、社員と共有し実践してこそ意味がある」と語り、同友会には実践している経営者から直接学べる環境があることや、尊敬できる仲間との出会いが経営者を成長させることを、自身の経験を交えながら伝えました。最後に、「経営は心を燃やす価値のある仕事。同友会で学び、良い経営者、良い会社、良い地域を一緒に作りましょう」と、新会員へ力強いエールを送りました。



新会員のみなさま 左から

- ① 細谷 陽子氏(代理) (同)office YFIVE
(新会員：渡邊 裕子 代表社員)
- ② 垣花 蔵志氏 (株)アート企画 社長
- ③ 武島 琉門氏 (有)たけちゃんホーム宮古支店
- ④ 根間 康輝氏 (有)総合琉通ギフトねま 営業部長
- ⑤ 中山 道哉氏 なかみち経営コンサルタント 代表
- ⑥ 駒田 基気氏 (株)H & D 顧問
- ⑦ 千田 泰平氏 (株)島の人事部 社長

その後、新会員からは「地域に貢献できる会社をつくりたい」「多くの経営者とながり、自分自身を成長させたい」など、同友会への期待や今後の目標が発表され、それぞれが学びへの第一歩を踏み出しました。今回のオリエンテーションは、同友会の価値を共有するとともに、学びを自社での実践につなげる第一歩となる有意義な機会となりました。(先嶋産業(株) 友利博明)



浦添でだこ支部 7月支部例会

欲しいを叶えて周りを笑顔にする企業を目指す！



赤嶺 宏氏

七月七日、

浦添市社会福祉センターにて、浦添でだこ支部例会が二十五名の参加で開催され

「機械好き少年がIT企業経営者へ」時代の変化を見据え、技術を磨き、人を育て、未来へつなぐ経営の挑戦」をテーマに、(株)システック沖縄社長の赤嶺宏氏が経営体験報告をおこないました。座長は(株)日宅 社長の佐和田健二氏が務めました。

赤嶺氏は、幼少期、農業を営む家庭で育ち、家族とともに農作業をする中で、責任感と忍耐力を身につけました。機械や電化製品の分解・組み立てが好きだったことから工業高校の機械科へ進学。その後、将来性を感じてコンピュータ分野へ進路を転換し、京都コンピュータ学院で情報工学を学びます。一九八六年にIT企業へ入社し、首都圏で技術者として経験を積み、一九九六年に(株)システック沖縄で、取締役、専務、代表取締役専務を経て、二〇一一年に社長に就任しました。経営面では、リーマンショックをは

じめ幾度もの厳しい局面を経験しました。売上減少への対応として、社員の給与カットや希望退職などを行いました。後、「社員を守る経営」の重要性を痛感。現在は銀行借入や予備資金の確保、キャッシュフローの管理を徹底し、会社の財務基盤を強化しています。

また、親会社から株式を買戻し、完全独立し、社員持株会を設立するなど、社員とともに会社をつくる経営にも取り組んでいます。

二〇一〇年の同友会入会を契機に、企業変革支援プログラムを活用して経営課題を整理。経営理念の成文化、顧客・社員満足度調査、経営発表会、社員教育、評価制度の見直しなど、学んだことを具体的な経営実践につなげてきました。

現在の課題は、事業承継、若手技術者の育成、社員の自立、IT人材の離職、採用難にあります。これらに対し、次世代幹部に経験を積ませ、社員教育や福利厚生の実施、働きやすい職場づくりを

進めています。最後に、自社の理念である「欲しいを叶えて周りを笑顔にする企業を目指します」を紹介。社員には「人って良かった」、顧客には「頼んで良かった」、社会には「あつて良かった」と思われる会社を目指し、学びを経営に生かす続ける姿勢を示しました。

(事務局)



赤嶺 宏氏と佐和田 健二氏



グループ討論

北部支部 7 月例会

社員と共に故郷で錦を織り続ける企業とは

七月二十二日、howlive 名護宮里店にて、広島県府中市の(株)タテイシ広美社 代表取締役・立石克昭氏を講師に迎え、「社員とともに故郷に錦を織り続ける企業とは」をテーマにご講演いただきました。

立石氏は、二十四歳で創業し、小さな塗装工事から事業をスタート。現在では社員百二十名、売上二十五億円を超え、全国の商業施設やオリンピック、万博などの大型プロジェクトを手掛ける企業へと成長しました。しかし、その歩みは決して順風満帆ではなく、バブル崩壊による経営危機や大型案件での失敗など、数々の困難を経験。そのたびに「大手がやらない仕事を自社が担う」という信念を貫き、発想を転換しながら挑戦を続けることで、危機を成長の機会へと変えてきた実践が紹介されました。

また、「従業員ではなく、自ら考え行動する社員を育てることが企業の未来をつくる」と語り、企業参観日や地域の中学生による模擬会社経営など、人づくりを軸とした経営実践も紹介。社員が仕事に誇りを持ち、その姿が家族や地域、次世代へとつながっていくことの大切さを伝えました。

講演の最後には、広島の方言で炭が

赤々と燃える様子を表す「いこる」という言葉を紹介。「まずは自分自身そして自社がしっかりと燃えなければ周囲を照らすことはできない」と語り、経営者自らが情熱を持つて会社や地域を照らす存在であり続けることの重要性を訴えました。参加者は、地域で事業を続ける使命と、人を育てる経営の本質について学び、自社の未来を見つめ直す貴重な機会となりました。

(南結設計 又吉大輔)



報告風景

北部支部 6 次産業化委員会 事例報告会

感謝と自分を信じる

「自己決定という最大の投資と皆様のおかげで起業3年で年商1億に！」

北部支部六次産業化委員会では、七月九日、名護市産業支援センターで、(株)K-FOOD PLANNING 代表取締役の古波倉正紀氏を講師に迎え、「感謝と自分を信じる」「自己決定という最大の投資と皆様のおかげで起業3年で年商1億に！」をテーマにした事例報告会を開催し、十二名が参加しました。

古波倉氏は、父親が創業した「金正青果」で経験を積み、二〇二〇年に二代目社長へ就任されました。しかし、コロナ禍で新規事業への考え方を巡り父親と対立し、「今こそ挑戦すべき」という信念のもと独立。自宅と一台のミニバンで(株)K-FOOD PLANNING を創業され、現在ではコンビニやドラッグストアで野菜を販売する「コンビニマルシェ」を県内約百二十店舗で展開されています。

古波倉氏は、「自己決定こそ最大の投資」であり、自らの決断を信じて挑戦し続けることの大切さを、自身の経験を交えながら語られました。創業当初は赤字経営や資金繰りに苦しみ、妻や仲間の支えがあったからこそ現在があるという感謝の思いも率直に共有さ

れました。

最後に、「これからもワクワクを大切に、沖縄から日本を元気にしていきたい」と力強く締めくくられました。挑戦する勇気と、支えてくださる家族や仲間への感謝の大切さを改めて学び、大変有意義な講演となりました。

(株)八重自動車 仲宗根修司)



講師の古波倉 正紀氏



八重山支部 7月支部例会

医師が教える健幸経営

「沖繩の知恵を経営に活かす「5つの処方箋」

七月二十五日、美崎町自治公民館で八名が参加し、開催された八重山支部例会は、「一人ひとり医師が教える幸せ健康経営」「沖繩の知恵を経営に活かす5つの処方箋」をテーマに、医師・産業医の城所望氏よりご講演いただきました。

城所氏は、八重山の島々にある診療所で約三十年間にわたり地域医療に携わり、「ドクター・離島」の愛称で親しまれています。離島の医療活動や島の人々との交流を通して、健康で幸せに生きるための知恵は、沖繩の自然や文化、人とのつながりの中にあると感じ、著書『沖繩式リトリート』を出版されました。

講演では、単に病気がない状態ではなく、身体的・精神的・社会的に満たされた「ウェルビーイング」の実現が、企業の成長にもつながると語られました。社員が幸せで心身ともに健康な状態で働くことで、生産性が高まり、欠勤や、出勤していても本来の力を発揮できない「プレゼンティーズム」の改善にもつながります。

また、沖繩の知恵を生かした処方箋として、「自然・祈り・笑い・対話・つながり」の五つが紹介されました。朝



城所 望氏



会場全体



集合写真

日を浴びる、緑に触れる、今この瞬間を味わう、声を出して笑う、相手の話を否定せず最後まで聴くなど、日常や職場で実践できる方法が示されました。グループ討論では、「幸せ健康をどのように経営に生かしたいか」をテーマに意見交換を行い、経営者自身の健康を土台に、会社と社員一人ひとりの幸せを同時に目指すことの大切さを共有しました。理念や十年ビジョンを社員と共有し、心理的安全性のある職場をつくるのが、健康な企業づくりにつながるかと再認識することができたとても有意義な例会となりました。

(同) 松島 奥平あかり



八重山支部が協力

第4回島の子ども応援まつり

例えるならば「win-win-win・嬉しい・楽しい・ありがとう」等々、ポジティブな言葉ならなんでも当てはまりそうな「島の子ども応援まつり」もう定番と呼んでいい第四回目が、去った六月二十一日に石垣市新栄公園で開催されました。

今回も過去にもれなく過去最大(出店数二十四・出演二十二団体、約六百三十人)となり、同友会協力(青森・千葉・東京・滋賀・沖繩本島・八重山)の無料配布に、宮古・福岡・韓国からもお手伝いが駆けつけ、まつりのスタート集客に大きく貢献しました。主旨は一貫して子どもたちのチャレンジの機会にかかる資金造成を目的としたもの。主役となる子供たちはもちろん、出店に頑張る父母会の皆さんや



おじいちゃんおばあちゃん、そして協賛の皆さま含め一万一〇〇〇人を超える多くの方々が盛り上がりしました。さらに今年は第三十回ふるさとイベント大賞で「ふるさとキラリ賞」を受賞(全国から応募数一二四件中、ハイベントが受賞)、石垣市のアフロ月間にも重なり具志堅用高さんが応援に駆けつけてくれるなど、とても楽しく充実したまつりとなりました。

(同) PLAN t PLAN 宮良高彰





6月サンライズ支部例会

信託・信用の代償と復活への道 〜どん底から子へ見せる親父の挑戦〜



福本 考平氏と座長の湧川 洋邦氏

七月二十八日、西原町商工会にて、サンライズ支部例会が開催され、二十四名が参加しました。報告者は、(株)考福 社長

の福本考平氏

後には、最高売上を達成し、三店舗目も展開しました。しかし、任せた店長が期待を裏切る結果になります。「信じて託した役こそ、細心の注意を払う」の教訓が生まれました。

その後、デジタル資産運用の失敗やコロナ禍もあって、全店を閉店。借金だけが残り、転機になったのは、ポータブルバッテリーメーカーの社長との出会いでした。そこから防災事業へと目を向けます。資格を取得し、専門家として活動をスタートさせました。順調ではなかったものの、ラジオのパーソナリティや防災グッズ大賞の優秀賞を受賞したことで、「誰もが挑戦できる舞台を、創り、支え、守る」を理念にした「事業継続支援事業」の道へと繋がりました。

福本氏は福島県出身で、静岡の大学を卒業後、東京で五年勤務。満員電車の疲れ果てていた折、出会った飲食店のオーナーから「お腹だけでなく心も満たしてくれる」仕事に魅力を感じました。田舎の福島での出店を描いていましたが、そこに東北大地震。そこで頭を切り替え、憧れていた沖縄への移住を決意します。

身寄りもない沖縄に周囲は大反対でしたが、二〇一四年に移住し、翌年には「居酒屋とりからたまご」をオープン。さらに日本酒バーも開店し、三年

二〇二八年には飲食業へ再挑戦します。それはかつての飲食時代に関わっていた子ども支援のボランティアへの想い「地域との関りが強く、子どもの成長が見られる」ことの楽しさから。十五歳未満の比率が断トツで高い将来ある沖縄県に貢献すべく、子ども達が無償で学べる「Eラーニング」の展開や同友会で学んだ「コミュニケーション

ルール」などに関わるのが夢だと語りました。

最後に、「失敗や挫折で今の自分がある。例会で失敗を学ぶことが同友会の良さ」と締めくくりました。

(カラオケ同友会 島尻裕巳)



グループ討論



例会の集合写真



サンライズ支部学習会 「企業変革 初級編」 支援プログラム



大城 章氏

七月十四日、リッチグリンにて、県の経営委員長の大城章氏(同)グッド代表

社員)を講師に、サンライズ支部の「企

業変革支援プログラムVer.2」学習会が開催され、五名が参加しました。支部は、今回第一回として、初級編の内容で行い、今後中級、上級と重ねて開催していくことにしています。

参加者は、パソコンを持ち込んだの企業変革支援プログラムへの登録から始め、講師の大城氏から、プログラムの流れや、考え方、活用法などの説明がありました。支部では今後、さらにプログラムを活用して自己診断ができるように、中級編、上級編へと進める予定にしています。(事務局)



サンライズ支部 BBQ会を開催!

サンライズ支部は、八月一日に、きららビーチにて、BBQ会を開催しました。参加者は二十名+子ども五名と少な目でしたが、海邦銀行の二名の支店長や兵庫同友会の二名のゲストを含め、楽しい交流の場となりました。

具志支部長

は、「来年はもっと多くの参加で、スイカ割りなど企画して取り組みたい」と抱負を語りました。(事務局)



集合写真



南部支部 AI学習会 Part 1

AI社員をつくらう



齋藤 孝春 氏

七月十三日、南風原町商工会にてAI学習会を開催し、二十三名が参加しました。AI学

習会は、今年で三年連続の開催となり講師も引き続き、合同会社アキユーズの齋藤代表にお願いしました。年々進化し続けているAIは、仕事に欠かせないものになりつつあります。今年のテーマは「AI社員をつくらう」AIを活用してAIにできる業務は任せざることを目的として三回企画しております。

一回目は座学でしたが、まず驚いたのが齋藤氏の写真から音声で自己紹介したことです。またパワポをAIに説明させてAI活用方法を体感できました。新たなAI「SUNO」には度肝を抜かされました。AIが歌うのです。例えば会社の社歌をつくるときに、作詞は自ら想いを込めてつくり、AIに曲調（校歌風、ポップ風、演歌風）を指示し、歌う人も（男、女、若い、ベテラン）を選ぶこともできるのです。早速AI学習会の歌を披露していました。南部支部の応援歌もつくってほし

いと依頼しました。

齋藤氏は言います。AIは二十四時間三六五日働き続け、決して裏切らないパートナーである。AIも人間同様にコミュニケーション（壁打ち）を重ねることで、お互いを理解しあい、求めに期待以上に応えられる存在になることができます。AIにかかる費用を人件費として捉え、人手不足で困っている中小企業こそAI活用は不可欠であると確信しました。革命と言っているほど進化が早いAIを活用するために共に学び進化しつづけます。第二回目は十月七日の予定です。

（南たけ事務 竹 富久）



会場全体



ビジネス連携部会「ゆいまーる」

7月ゆいピッチ 経営の苦境から学んだこと



伊波 竜作 氏

七月二十三日、沖縄産業支援センターにて、「経営の苦境から学んだこと」をテーマに「ゆ

いまーる」のゆいピッチが開催され、九名が参加しました。報告者は、㈱グローバルリンク社長の伊波竜作氏でした。

伊波氏の同友会歴は十六年、同業者であつたセキュリティ沖縄システムズの上江洲さんに誘われ入会。例会での学びや異業種交流での学びに感銘を受け、浦添でだこ支部に所属し、ビジネス連携部会では、情報委員会の委員長を昨年から務め、積極的に同友会を活用しています。

今回のゆいピッチでは、陽気な伊波さんからは想像できないほどの試練を乗り越えて来た内容の発表でした、高校を卒業し、本土でソフトウェア開発の会社に入社。必死に学び、技術を身に付け仕事をこなしますが、学歴が無い事に格差を感じていました。十五年間勤めましたが、退職し、沖縄へ戻り就職。先輩から誘われ共同経営でのソフトウェア会社を設立

しますが、意見の相違で離別、三十四歳で起業しました。

順調に実績を作り、会社経営が上向き始めますが、社員の退職を背景にした過度な要求に、弁護士を通して対応したり、社員の引き抜きにより取引先の離反など、ソフトウェア開発の業界は何でもありの社会なのか、を疑ってしまう程の経営体験発表でした。

その中でも会社創業からの中核人材の退職が最も辛い出来事で、技術・顧客対応の要の人材損失で心が折れてしまったことや、社内体制を作り変え、ベテラン社員を昇格し、任せる体制への変化と新卒採用へ方針転換を行うことで、会社の雰囲気が変わり、離職率が激減したことなどを報告しました。

労使見解や例会を参考に、第三者を会社に関わらせるなど、日々新しい課題に挑戦し続けたからこそ会社発展の原点と伊波氏は強調しました。いつも明るい印象の伊波氏ですが、常に前を向き、学び続けるチャレンジ精神は、家族愛から来ていると強く感じるゆいピッチ内容でした。

（シンプロメンテ㈱ 徳田恭紀）



ゆいぴっち



第25期 社長・社員共育塾が開講



河野 通洋 氏

第二十五期
社長・社員共
育塾が、七月
二十一日、産業
支援センターに
て、参加企業
二十一社、受講
生八十四名、付

添者二十二名で開講しました。

今期のテーマは、「共に学び、自ら動く」。共育塾では、経営者と社員が共に学び合う中で深い相互理解と信頼関係を築き、一人ひとりの個性と能力を最大に引き出し、生かし合いながら、学び続けます。今期も、学んだことを自ら実践を重ね、お互いに切磋琢磨し、成長を喜び合える仲間とともに、生きていく幸福感を実感できる時間、場を創り、よりよい今日にいたしましょう。

第一講は、「あたり前の日常は、当たり前じゃない。」「社員と地域と共に歩む八木澤商店の再建、理念と誓の志」をテーマに、(株)八木澤商店 社長 河野通洋氏(岩手同友会)の講演で始まりました。

河野氏は、岩手県で二百年以上続く老舗醤油醸造会社、(株)八木澤商店の九代目の跡継ぎで、専務取締役に就任しました。経営状態が悪化している会社を短期間で業績を回復させ、銀行からの信頼を得る事ができましたが、徹底的なコストカットに社内はギスギスし、社員からの信頼を失います。その頃に同友会に入会し、経営指針作成講座を受け、「社員と経営者が手を取り合っ

ていい信頼関係をつくりいい会社」にしていくことに気づき、社員との信頼関係徐々に築き上げていきます。

そして、二〇一一年三月十一日、東日本大震災の津波で、壊滅的な被害を受けました。陸前高田市、八木澤商店本社、工場もすべて失い、家族も失った社員もいた中で、会社の復興、町の復興に社員と地域の人々と築いてきたことを報告。この年の四月には八木澤商店は入社式を行い、町の復興には人材の必要性を感じ、地域の企業有志と共に求人活動を行いました。そして、市内の求人倍率が二八五%と異常な数字と共に徐々に復興していきます。

また、陸前高田市の同友会員数も十年後には百四十社になりました。震災から十五年、信頼関係を一度失った経営者が皮肉にも東日本震災により、社員と地域の絆を強固に築き上げました。当たり前の日常生活は、震災や自然災害ですべてなくなりません。しかしながら、陸前高田市の人々は震災ですべてなくなっても、「人との絆、人との信頼、復興への情熱」を失うことはありませんでした。

我々、中小企業は、「人を大切にし、会社の社員を尊重し、事業を発展させ、地域と共に成長していく」そうした企業づくりの必要性を感じました。また、中小企業家同友会が、地域に必要とされる団体であることを実践で示した講演となりました。(株)赤マルソウ 大田守章)



第3回 新人フォローアップ研修会



あらかき 咲美 氏

七月二十七日、沖繩産業支援センターにて、第三回新人フォローアップ研修会が「ビジネスマナー」をテーマに開催さ

れ、総勢一〇三名が受講しました。講師は、二〇二三年から講師をお願いし、四月の合同入社式でも「ビジネスマナー」を担当する、アグレイル印象美人(株)のあらかき咲美氏。

今年度の講義は、事前アンケートを取り、日頃仕事をしている中で、疑問に感じていること等、受講生(新入社員)の声をまとめ、講師と付添者が入念に話し合いを重ね、講義内容を決め、あらかき氏には、三つの柱でお話し頂きました。

一つ目は「敬語の使い方」。尊敬語と謙譲語の違い等、電話応対にも関係すること、すぐに机に貼って使える敬語表がテキストに付いており、まずは、表を見ながら声に出して使ってみることで覚えることができ、講義後もすぐに使える実践的な内容でした。

二つめは、「電話応対」。様々な業種の受講生が集う中で、電話応対は、会社を代表する声、一人ひとりが、会社の声の窓口(入口)だということ、怖がらずに、「習うより慣れよ」で、ロールプレイングを行いました。



会場全体

最後に、「報連相の重要性」。ビジネスマナー講座では、珍しい内容ですが、実は、仕事をする中で、どんな場面でも必要な報告・連絡・相談。そのエッセンスを聴け、受講生だけでなく、付添者にも、虎の巻になるような資料を、あらかき氏が作成くださり、大変有意義な時間となりました。次回の研修は、受講生お待ちかねの、大ゆんたく会です。(同友会事務局)

第62期 経営指針作成講座 第4講・第6講

経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画

同友会では「経営理念」「十年ビジョン」「経営方針」「経営計画」の四つを合わせて「経営指針」と呼びます。日々の経営で、判断や決断を迫られるなか、自社の羅針盤として指針を定め、実践・確立へと経営委員会主催で講座を開設しています。

【第4講】



第4講講師 當銘 将也氏

第六十二期は、二十三名が受講しました。七月三日に第四講「経営方針の策定」を開

催。講師は㈱フォーカスの専務執行役員の當銘将也氏がつとめました。まず自身のこれまでの経験を語り、「経営方針」について講義。情勢や現状認識などワークシートを作成しグループ討論では、サポーター・フォローワーを交え、活発なアドバイスが出されました。第四講は自分と企業経営に向き合い、事業展開の方向性や中期経営目標を設定するなど演習も多く時間が足りないところを受講生も。目標達成の道筋を考える機会となりました。

【第5講】



第5講講師 大城 章氏

第五講は七月十八日に「財務・管理会計」を（同）グランド代表の大城章氏が講師をつとめました。

た。第一講でも自社の数字（財務状況）に向き合い「損益分岐点売上高」や「労働分配率」など経営に欠かせない財務分析の基本を学びましたが、第4講は管理会計や利益計画・経営計画の作成へとすすみました。各自でシートを作成し、グループ討論で発表しますが、数字に関する事なので一社から複数参加の企業は、すり合わせながら計画を作成。自社に持ち帰り、実践がすすむように意見を交わしている姿がみられました。

【第6講】



第6講講師 真栄田 一郎氏

第六講は七月二十四日に「指針書の完成をめざす」ための最終講として、「経営理念」「十

年ビジョン」「経営方針」「経営計画」の四つのテーブルに分かれ、それぞれの仕上げを目指します。

何度も修正を重ね、シートに書き込んでいき、アドバイスを聞いてまた修正します。最近ではAIなど便利なツールもありますが、自身が考え生み出した魂からの言葉は何にも勝る言葉となります。それを社員へ伝え共有し、社員の声を反映させることで自社の「指針書」が完成します。演習とグループ討論でプレ発表を終わえ、最後の講義として「指針の実践」を㈱沖島電機代表取締役の真栄田一郎氏が講師をつとめました。

真栄田氏は、マエダ電気工事の二代目として先代から事業承継し、社長を務めていた際、様々な失敗や経験を重ねるなか「本当に会社経営は面白い」と断言できるまでに変化。弟である現社長に事業承継した段階には社員が計画や方針を立て、財務管理はもちろん利益計画も現場から積み上げていきます。社員の幸せを第一に考え、会社として研鑽を重ねてきたこと、自社と自身のあゆみを説明。現在の会社は四期目を終え、経営方針発表会に初めて取引先や金融機関

など関係者を招待したとき足が震えたと告白。「発表会はずいぶん受講生の皆さんも自社で実践してほしい。それが社員や地域との約束になる」と、経営者が自身を鼓舞するためでもあると感じました。

第一講から六講までの毎講義、自身と向き合い苦悶しながらシートを仕上げ、真摯な姿勢が見られ、さらに講座の重要性を感じる機会となりました。八月四日に開催される「報告会・修了式」は受講生全員が発表をします。二〇二六年度は、これまで年に二回開催していた講座を一回に絞ったことで、今後はブラッシュアップ講座の企画などさらに「経営指針の実践と確立」に向けた内容を経営委員会で検討していきます。第六十三期の開催が決まりましたらご案内いたします。（事務局）



経営指針作成講座

2026年度 役員研修会

役員自身が学びを自社で実践し、成長する姿を示す！



立石 克昭氏

七月二十二日、浦添市市民協働・男女共同参画ハートセンターにて、役員研修会が開催され、サテライト会場（北部・中部・八重山）を含め、四十九名が参加しました。

同友会運動（企業経営と同友会活動は不離一体、同友会理念）についての講師は、中同協副会長の立石克昭氏（タテishi 広美社・会長、広島同友会代表理事）が担当し、「自社経営と同友会運動は不離一体！この同友会づくり」をテーマに話しました。

また、今年度初めて方針にした第八次中期計画を共有する意味で宮城光秀代表理事が、二十分間報告。「仲間づくり、同友会役員の役割」を與崎文美副代表理事が報告しました。

立石克昭氏の報告は、「自社経営と同友会運動は二位一体」というテーマのもと、企業経営と同友会活動は切り離せないものであり、役員自身がその実践者であることの重要性を語りました。役員が同友会理念を理解し、自社で実践する姿こそが、会員や地域から信頼される同友会づくりにつながると強調しました。

また、経営指針の重要性については、「タクシーの行き先」の例えを用いて説明し、



グループ討論

「社員は会社という車を運転する存在であり、経営者が理念やビジョンという目的地を明確に示さなければ、社員は安心して力を発揮できない。経営指針は作ることが目的ではなく、社員一人ひとりが自分事として理解し、主体的に行動できるように落とし込むことが大切である」と強調。そのため、社員の夢や目標も経営指針に取り入れ、会社と社員双方の成長を目指す取り組みを実践していると話しました。

人を生かす経営では、社員を「従業員」ではなく「主体者」として育てることが重要であり、委員会活動や社内プロジェクトを通じて、自ら考え提案する組織づくりを進めている実践を紹介。また、学校教育との連携にも取り組み、企業も地

域社会の一員として次世代育成に関わる責任があると述べました。

最後に、同友会役員には「経営の匂いがする例会づくり」と「役員自身が商品見本になること」が求められると締めくくり、「経営課題を率直に語り合い、実



那覇支部 新会員さんいらっしゃい♡

那覇支部は、七月二十七日、那覇市壺屋にある RESTAURANT & BAR VERY にて、「新入会員御披露目会」を開催し、新入会員十六名、会員十四名、ゲストと社員、総勢三十二名が参加しました。司会は田村杏奈さんが行い、新会員さんの緊張をほぐす明るい司会進行をしていただきました。宮城光秀代表理事、座間味代表理事と田上副代表理事にもご参加いただき、同友会の大切さを語っていただきました。

今回はじめて支部会交流委員会主催行事になりますが、会員交流会委員会メンバーが事前準備から当日運営まで頑張りと、多くの参加で席が足りなくなるほどの新会員に参加していただきました。

会員交流委員会は、参加者が笑顔で楽しい時間を共有することができるようにと団結して、食事の配膳や運営進行を行い、和やかな雰囲気の中で大変盛り上がりしました。

新会員さんからは「新会員をおもてなしするために、注文などご配慮いただきありがとうございます。ずっと立ちっぱなしでしたので、同友会がいかに質の高

践から学ぶ例会こそが同友会の価値であり、役員自身が学びを自社で実践し、成長する姿を示すことが、会員の共感を生み、同友会運動の発展につながる」と力強く訴えました。

（カラオケ同友会 島尻裕巳）



座間味代表理事の乾杯挨拶

い団体か容易に理解できました」「参加するまでは緊張していたが、思ったよりも話しやすくよかった」「明るくて楽しい時間を過ごせました」などの感想が聞け、新会員と那覇支部会交流委員会とのグループLINEを作成し「同友会で分からない事や、悩み事は気軽にLINEしてくださいね」と終始和やかな雰囲気。最後にはお店の外にて記念の集合写真を撮影しました。

（みらい 西中間武海）



始動！ 会員訪問委員会活動 共に学び、共に成長する！



第1回会員訪問委員会

意義とやりがいを実感しています。

また、訪問先では経営者の皆さんから、会社を立ち上げた経緯や、これまでのご苦労、経営に対する想いなど、普段なかなか聞くことのできないお話を伺う機会があります。そのお話を聞く中で、私たち委員の方が学ばせていただくこともたくさんあります。

そして、もし経営上の悩みや課題を抱えていらっしゃる場合には、一緒に考え、同友会の中にあるさまざまな学びや先輩会員の成功事例などをお伝えしながら、「共に学び、共に成長する」ことを大切にしていきたいと思っています。

会員訪問委員会は、単に「参加してください」とお誘いするだけの活動ではありません。一人ひとりの会員さんと顔を合わせ、声を聞き、その方にとって「同友会に入っていて良かった」と思っただけのような関わりをつくっていくことが、私たちの役割だと考えています。



一人でも多くの会員さんが同友会の仲間とながり、学び、経営に生かしていただけるよう、委員会一丸とな

って取り組んでまいります。今年度も皆さんのご協力をいただきながら、会員訪問委員会の活動を盛り上げていきたいと思っています。

(有)アンカー商事 與崎文美)

■第1回会員訪問委員会開催！

六月二十三日に第一回会員訪問委員会の会議が開催されました。委員は、各支部・部会・委員会からメンバーを選出してもらい構成しています。これまでも各組織単位での会員訪問活動を行っていましたが、会員訪問委員会ができたことにより、各取り組みをそれぞれリンクさせながら、より活発化できるようにしていきます。と確認がされました。

【会員訪問紹介】

● 中部たたみ店

新城 忍 代表者

三十代で畳店を開業しました。「まずは仕事を取らねば」と、本島の北から南どこへでも伺っていたが、仕事は増えても移動時間や経費が大き



中部たたみ店 代表 新城氏(中部支部)



長浜モーター 長浜旭男氏(中部支部) 中央



(株)YAIMA 砂川氏(八重山支部) 中央



海邦ベンダー工業 登川氏(南部支部) 中央

くなり、利益につながりにくいことに気付き、そこから営業エリアを見直し、効率を重視した経営へと舵を切りました。元々勉強熱心な新城社長ですが、経営指針作成講座などに参加し同友会での学びも活かしていきたいとのことでした。

● 長浜モーター(有)

長浜 旭男 代表取締役

七月、代表取締役就任された長浜さん。店舗には就任を祝うたきさんのお花が飾られていました。

長浜モーターさんは、新車・中古車販売をはじめ、車検、钣金塗装など、車に関することを安心して任せられる地域に根差した老舗企業です。

代表の長浜さんは三十歳という若さながら、会社や社員一人ひとりのことを常に考え、社員の自主性を上手に引き出しながら、風通しの良い組織づくりを実践されている、とてもエネルギーあふれる経営者でした。長浜さんの経営に対する考え方や想いを、同友会の例会でじっくりお聞きしてみたいと思います。



共同求人委員会主催「人を生かす学習会」

自社の存在価値を問い、社員が誇りを持って働ける会社をつくる！

七月二十八



川中 英章 氏



玉城真由美委員長 挨拶

日、共同求人委員会の人員が、学習会を開催し四十名が参加、講師には、広島より全国共同求人委員長の川中英章（株）EVENTOS社長をお招きしました。同友会における

共同求人運動の意義について、ご自身の実践を交えながらお話いただきました。

特に印象に残ったのは、「人がいないから採用するのではない」という言葉です。時代や地域が変化の中で、企業が「今年は採用する、今年は採用しない」と自社の都合だけで考えていては、人も地域も育ちません。採用とは単なる人員補充ではなく、自社の存在価値を問い、社員が誇りを持って働ける会社をつくること。そして若者が人生を過ごす価値のある会社をつくることだと学びました。

川中社長の会社も、最初からそのような会社だったわけではありません。一九八八年の設立以来、中途採用が一〇〇%。即戦力を求めて大手ホテルなどから経験者を採用していましたが、三年以内の離職率は約八十%。大型ホテルが進出するたびに大量離職が起こり、職人気質が蔓延し、給与や雇用条件まで社員との「取引」になっていったといいます。

転機となったのが同友会との出会いでした。二〇〇四年に採用を目的として入会し、二〇〇七年には経営指針づくりに取り組みます。そして初めての新卒内定者の家庭訪問で、父親から「大学を卒業してまで働く価値のある仕事なのですか」と問われます。その一言から、「会社の中に誇りが必要だ」と気づいたそうです。

そこから掲げたビジョンが「地域の同業他社のサービス向上に革新的な刺激を与える会社になる」。地域に寄り添い、生産者に近づくため山を切り開いて畑をつくり、社員の「畑にトイレがない」という声から、なんとレストランまでつくりました。インターシップには農作業を取り入れ、農家の売れ残りも買い取り、社員と農家とのつ

ながりを深めていきました。

その結果、十七年間で関わる農家は七軒から百二十軒へ、地域の飲食・小売店舗は一軒から二十軒へ、移住世帯は二世帯から二十二世帯へと増加。近隣学校の生徒数も九十八人から百三十人となり、会社の成長が地域の変化につながっています。

「十年ビジョンを社員さんと語れる



グループ討論



会場全体

会社ですか」。この問いが心に残りました。共同求人とは、求人手法を学ぶ活動ではありません。採用と社員教育を通して経営課題に気づき、社員と共に未来を描き、地域になくてはならない会社をつくる運動なのだ、改めて考えさせられる学習会となりました。

（南大城水道工事社 玉城真由美）

「遊ぶ」と「泊まる」で北部の滞在を豊かに ピンチをチャンスに変える、沖縄フルーツランド株式会社の挑戦



会員ホット情報

今おすすめだよ!



リエッタ中山（外観）



畳リビング

テーマパーク「OKINAWA フルーツランド」をはじめ、ホテル事業などを展開する沖縄フルーツランド(株)安里博樹社長にお話を伺いました。

フルーツランドが直面した課題は、フルーツには旬があるため、実った果実を見せられない時期があることでした。団体旅行の時代はスタッフがついて説明しながら案内できましたが、レンタカーによる個人旅行が主流になると、「フルーツがない」という声が増加。収穫時期をずらす試みも、木が弱るなどうまくいかず、「フルーツは調和があってこそ実る。そのことを伝える施設にしようと考えました」と安里さんは振り返ります。

“見せる”のではなく、“見つけてもらう”

そこで、フルーツの魅力を伝えるために説明看板を設置しました。しかし、なかなか読んでもらえません。発想を逆転させ、情報を最初から見せるのではなく、思わず開けたいくなる仕掛けの中に「隠す」ことにしました。

その考えから生まれたのが、絵本の世界を冒険する体験型コンテンツ「トロピカル王国物語」です。来園者は、フルーツに関するクイズを解きながら園内を巡ります。仕掛けを動

かすことで説明が現れ、遊びながらフルーツについて学び、体感できる構成です。2013年の開始後も、幅広い来園者に楽しんでもらえるよう、日々ブラッシュアップを重ねています。

家族や仲間と一緒に泊まれるホテル

テーマパークの充実に伴い、来園者の滞在時間は長くなりました。その一方で、子どもたちが「まだ遊びたい」と泣きながら帰る姿も増えたといいます。理由は、那覇方面のホテルへ戻り、夕食などの時間に間に合わせるためでした。

「どれだけ良い場所をつくっても、泊まる場所がなければ、ゆっくり滞在してもらえない」。その課題を解決するため、2018年に開業したのが「コンドミニアムホテル名護リゾート リエッタ中山」です。

広いリビングやキッチン、畳のスペースを備え、最大10名まで家族やグループが同じ部屋で過ごせることが特徴です。大人数で利用すれば、一人当たりの宿泊料金を抑えられることも特徴です。

また、ホテル内ですべてを完結させるのではなく、食事や買い物は周辺の店舗を利用してもらい、地域全

体を楽しんでもらうことも大切にしています。フルーツランドの敷地内にも飲食店や美容室などのテナントを迎え、小さな町のような空間が生まれています。

北部に滞在する時間を増やしたい

今後はホテル事業をさらに強化し、泊まる人を増やすとともに、テーマパークも継続して進化させていく考えです。「滞在する日数を増やすことと、遊べる場所を増やすこと。その両方が必要です。それは一企業だけでなく、名護や北部、ひいては沖縄県全体のためにもなると思います」と安里氏。

沖縄フルーツランド(株)は、「遊ぶ」と「泊まる」を二本柱に、地域とともに、北部での滞在価値を高め続けています。

(株)アイランド・プロジェクト 新井章仁

《会社概要》

沖縄フルーツランド(株)

代表取締役社長 安里 博樹 氏

〈北部支部〉

所在地／沖縄県名護市字為又1220-71

事業内容／テーマパーク、宿泊施設、飲食・物販、テナント事業など

TEL／0980-52-1568

沖縄を支える鉄骨、人を支える理念

わが社の
オポジー

第336回

祖父との約束

「じいちゃん、オレ、継いだほうがいい？」

意識がほとんどない状態で病室にいた創業者の昌幸さんと、たまたま二人きりになった時のことです。宮城昌仁（まさみ）さんは思い切って声をかけました。すると、わずかに反応がありました。

継ぐつもりなど、まったくありませんでした。でも、その瞬間が昌仁さんの決意になりました。

沖縄を支える鉄骨

那覇文化芸術劇場などは一とんすべての鉄骨や、那覇バスターミナルの屋根を支える白い特徴的な鉄骨。その製造と組み上げを担ったのが、1963年創業の株式会社宮昌工業です。

鉄骨製作工場としては、国土交通大臣が定める品質管理体制と技術力にもとづく5段階評価で上から2番目となるHグレードを取得。全国でも311社、沖縄県内ではわずか4社しかない、高い技術力を持つ会社です。

三代目の覚悟

今年5月、その宮昌工業の代表取締役社長に就任したのが37歳の宮城昌仁さん。創業者の祖父・昌幸さん、父で会長の哲人さんに続く三代目です。

高校卒業後は名古屋で数年間働き、15年前に宮昌工業へ入社しました。高校時代から工場を手伝っていたこともあり、現場で働くことに抵抗はありませんでした。ただ、会社を継ぐつもりはなかったそうです。

そんな気持ちを変えたのが、祖父とのあの日の出来事でした。昌仁さんは自他ともに認めるおじいちゃん子。いつも自分の味方になってくれた祖父への思いが、そのまま会社を受け継ぐ覚悟へと変わりました。

決意すると、すぐに東京の後継者育成塾へ飛び込みます。ところが、もともと勉強は大嫌い。専門用語は辞書やインターネットで調べながら理解し、毎回持ち帰る課題にも悪戦苦闘。「本当に最後までやり切れるのだろうか」と不安だったそうです。

学び続けるうちに、それまで何となく感じていたお父さんのすごさが、経営という視点から見えるようになりました。



宮城 昌仁 氏

株式会社化、本社と工場の移転、会社の成長。その一つひとつの意味が理解できるようになる一方で、自分との差も痛感します。

目の前の仕事をこなしながら、社員さんの育成も考えなければならない。会社の将来も背負わなければならない。

「オレに継げるのだろうか。」

会社では表に出しませんでした。心の中では追い込まれ、一日の仕事を終えて会社を一步出ると、現実から逃げ出したいくなる。そんな日々が長く続いたと振り返ります。

それでも辞めようと思ったことはありません。

「じいちゃんと約束したからです。」

あの日の約束があったからこそ、苦しい時も逃げずにここまで歩いてくることができました。

会社を支えるのは人

その苦しい時期を乗り越え、社長となった昌仁さんが会社について語る時、何度も口にしていた言葉があります。

それが「人」です。

社員さんには、人として成長してほしい。

「技術は教えることができます。でも、教えることで人間性まで育つわけではありません。」そこが今の宮昌工業の課題だと昌仁さんは考えています。

人間性の高い人が集まる会社になれば、仕事はもっと楽しくなる。前の工程、後ろの工程、そして周りの人のことを考えながら仕事をすれば、会社全体がうまく回る。

「会社はチームスポーツみたいなものなんです。」

チームが良くなれば、結果は自然についてくる。そんな考え方です。

だからこそ、社長就任を機に、3年ほど前に変更された経営理念を、お父さんの哲人さんが定め、自分も入社以来ずっと口にしてきた理念へ戻すことを決めました。

人倫を重んじ

人倫を重んじ、
品格、技術、昌運の向上を図り、
社会発展に寄与する。

「人倫を重んじ」から始まるこの理念は、人としての成長を何より大切にしたいという昌仁さんの思いと重なります。

私たちが何気なく見上げる建物を支えているのが、宮昌工業の鉄骨です。

その会社を支えていくのは、人。

昌仁さんが何度も口にしていた「人」という言葉が、とても印象に残りました。

（伴走舎 牧野誠）

《会社概要》

（株）宮昌工業

代表取締役社長 宮城 昌仁 氏

〈南部支部〉

住 所／八重瀬町字新城1767

TEL／098-987-0831

事業内容／鉄工造物工事業・建築工事業
土木・ブレーン製造